

単元名：

「慣用句」

(全2時間扱い中 第2時)

授業日時 令和3年10月15日(金) 第2校時

授業学級 4年1組

授業会場 4年1組教室

授業者

指導者

(1) 主眼 (授業の手立てとねらい)

前時の活動の中で「慣用句」に対しての興味や関心の高まった児童が、慣用句を用いて物語を書く活動の中で、慣用句の意味を考えながら自分なりのものがたりを考えることを通して、「慣用句を使うことで豊かな表現をすることができる」という事に気づくことができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの動き	・指導 ※留意点 《教材》 【評価】	時間
導入	1. 「慣用句」の確認	「どんなのをやったっけ？」  「ことわざ知ってるよ！二度あることは三度あるとか！」  「そうなんだ、じゃあ適当なものもあるのかな？」 「自分たちで作れるかな？」	「前回、慣用句ってやったの覚えてる？」《パワーポイント》 『「慣用句」って調べると『いくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになった決まり文句のこと。長い間、そのように使われることで習慣になった言葉。』って書いてあるんだ。』 「こういう言い方だと堅苦しいし分かりにくいけど、前回やった慣用句たちみたいに言葉をそのまま見ると変なのに、言葉の意味を知ると『なるほど！』ってなるような意味だったりするものの事を言うね。」 「ことわざと慣用句、どう違うか分かるかな？」 「ことわざは、実際にあったこととか、言い伝えがそのままことわざになったんだけど、慣用句は『こういう言い方をしたら面白いな』って昔の人が作ったものがそのまま残ってできたものが多いんだ。」	5
	【学習問題】 慣用句のいいところってなんだろう？			
			【学習課題】 意味を知った慣用句で想像物語が書けるようになる	

展開	2. 慣用句クイズ	<p>「影が薄くなるってどういう事だろう？」</p> <p>「光が遠いとかかな？」</p> <p>「目が真っ赤になるってことかな？」</p> <p>「目薬が必要ってことかな、それだけ疲れてるとか？」</p>	<p>「こんな慣用句があるんだけど、これはどういう意味になると思う？」</p> <p>《PowerPoint》</p> <p>・『頭が上がらない』『影が薄い』『血眼になる』『ものにする』の4つを提示し、それぞれ語感でどういった意味になるのか、どういうものなのかを考えてもらい発表、その後実際の意味を提示するという活動を行う</p>	10
	3. 「どんな慣用句が入るかな？」	<p>「お話を書く!？」</p> <p>「どう書けばいいのか分かんない…」</p> <p>「先生が書いたんだ!」</p> <p>「この繋がり方なら血眼になるしかないね!」</p>	<p>「さてみんな、今4つの慣用句をみんなと考えたね。今日は、これから今の4つの慣用句を使って想像でお話を書いてもらいたいと思います。」</p> <p>「でも急に物語を書くのは大変だよね?」</p> <p>「という事で、先生、物語を書いてきました!」</p> <p>「先生の想像で作った自己紹介です」</p> <p>「こんな風に4つあります。皆、この四角の所にはどの慣用句が入ると思う?」</p> <p>《先生のそうぞうじこしょうかい》</p> <p>・物語の内容を読みながらどういった慣用句が該当するかを児童に考えてもらう</p>	10
	4. 想像物語を書く	<p>「他にも慣用句使えないかな?」</p> <p>「全部合わせて一つのものごとりにしたい!」</p>	<p>「それじゃあ、実際に慣用句を使って物語を書いてみようか。」</p> <p>各々で物語を考える</p> <p>※表現には注意をさせる(人を傷つける表現はしないなど)</p> <p>※書くきっかけがつかめない児童には慣用句の意味をおさえなおしたうえ、どんなイメージができるかなどお題のような形で例を提示する</p>	15
終末	5. 振り返り	<p>「間に合わなかったなあ……」</p> <p>「慣用句の意味って知ると面白い!」</p> <p>「みんなはどんな物語を書いたんだろう」</p>	<p>「今日はこれでおしまいです。物語が書けても書けなくても、一旦大丈夫だよ。」</p> <p>「そうしたら、今日物語を書いていて思ったところとか気づいたこととかを、シートのところを書いてください。」</p> <p>「書けたら提出して今日はおしまい!」</p>	5

【評価(対象)】学んだ慣用句に対して、自分なりに考えて物語を書くことができる(教科書)